

# 日照不足に伴う農作物の技術対策

## J A 仙台農作物日照不足対策本部

### 1 気象概要

6月下旬から日照時間の少ない状態が続いており、雨や曇りで経過した。今後、7月18日から向こう一週間、湿った空気の影響により曇りで、雨が降る見込みです。

下記の農作物等の技術対策を徹底してください。

### 2 農作物等の技術対策

#### ○共通事項

ほ場の見回りをこまめに行い、農作物の変化を見逃さないようにするとともに、多湿で病害が発生しやすいため、予防や初期防除（農薬登録に基づき）に努める。

#### ① 【水 稻】

- 葉いもちの発生が確認されたほ場では、雨の合間をねらい直ちに薬剤散布を実施し、拡大防止に努める。水田を丁寧に見回り、早期発見、早期防除に努める。
- 斑点米の原因となるカメムシ類の密度を抑えるため、出穂20～10日前までに畦畔等の草刈りを終える。さらに、水稻の穂揃期とその7～10日後に薬剤防除を行う。
- 昨年、稲こうじ病が多発したほ場等では、出穂20～10日前に予防防除を行う。

#### ② 【大 豆】

- 停滞水で湿害を受けないよう明きよや排水溝の補修を行い、排水対策を実施する。

#### ③ 【野 菜】

- ほ場内の停滞水による湿害の発生が生育に影響するほか、作業が遅れることにより収量・品質の低下が懸念されるので、明きよ等の排水対策を講じる。
- 果菜類では不良果実を早めに摘果するなど、草勢の維持を図る。また、灰色かび病等の病害の発生に注意する。
- ねぎでは、黒斑病・葉枯れ病等の防除を徹底する。

#### ④ 【果 樹】

- 着果量の多いところは、早急に摘果を進め適正着果とする。
- 黒星病等の羅病果実は見つけ次第摘み取って適正に処分する。